

令和3年度事業報告書

令和3年4月1日から

令和4年3月31日まで

公益財団法人アルカンシエール美術財団

[報告事項]

令和3年度事業報告

I. 事業事項

令和3年度 原美術館 ARC 事業概況

令和3年度は、令和3年1月11日の原美術館閉館を受け、原美術館とハラ ミュージアム アークの活動を群馬に統合、ハラ ミュージアム アークを原美術館 ARC と改称して再スタートを切った記念すべき年であった。作品移設作業および大規模改修工事に時間を要し、例年より1か月ほど遅い4月24日(土曜日)を開館初日としたため、当該年度の開館日数は240日であった。入館者数は25,667人。平均入館者数は107名で、一昨年度と同様にまで持ち直した。(昨年度一日平均入館者数77名、一昨年度106名)

2年越しで蔓延する新型コロナ感染拡大は収束の兆しが見えず、「不要不急の外出を避け、ソーシャルディスタンスを遵守せよ」との政府方針に沿い、マスク着用や館内の導線・人数制限の徹底、開館中も定期的に繰り返される清掃・消毒、来館者グループ毎の代表者の連絡先の記載や全員の入館前の検温といった非日常的な態勢強化による緊張を余儀なくされた。その様な状況下でも、多くの観客を迎えられたのは、新生、原美術館 ARC に寄せられた期待の表れと考える。東京から移設した奈良美智、宮島達男、森村泰昌による常設インスタレーションは、各作家の協力の元、それぞれ新たな空間で新たな命を吹き込まれ、品川時代の姿を知る来館者からも好評を博している。統合による作品・資料・図書等、荷物の搬入は開館後も続いたが、5月下旬に、事故もなく無事完了。野外作品等の移設作業は、次年度まで継続中である。

これまで、現代美術ギャラリーでは年間3本、観海庵では年間7本の異なるテーマによる展覧会を開催していたのに対し、本年度からは、通年のテーマを設定し、現代美術ギャラリーでは前期・後期に分け、観海庵では4期に分けて、主題に即した展示を企画するよう試みた。本年度のテーマは、「虹をかける」。当館を運営する財団名「アルカンシエール(Arc-en Ciel)」の和訳である「虹」は、人と人が美術を通じて対等に交流するための架け橋でありたいという財団理念を表しており、1月に閉館した原美術館とハラ ミュージアム アークの個性を原美術館 ARC へと繋ぐ表象でもある。現代美術ギャラリーでは、原美術館で原俊夫理事長が2018年に企画した「現代美術に魅せられて」展の出品作品や、コロナ禍により中止を余儀なくされた、原美術館最後の収蔵品展に展示する予定だった作品群を中心に、品川では展示が困難であった大型作品も交えて紹介した。さらに特別展示室・観海庵においても、同テーマで原六郎コレクションを中心に展観。円山応挙による16メートルに及ぶ大画卷「淀川両岸図巻」も、会期を通して巻き替え(場面替え)を行いつつ通年で展示し、夜明けから日没にかけて淀川を下る光景が描かれた全巻を観覧した。

その後、約2か月間の冬期休館を経て、3月19日より「雲をつかむー原美術館／原六郎コレクション」展を開催、前年度同様、ひとつのテーマによる通年展示(前後期制)を取っている。

令和4年1月、原俊夫理事長より、原六郎による収集品を新たに寄付したい旨申し出があり、理

事会の承認を得て、2月4日付けで111点を受領した。明治45年に東京帝室博物館(現東京国立博物館)への出品歴がある青磁香炉1点や、鎌倉時代に遡る仏画を含む、美術史上貴重な作品群で、当財団が所有する原六郎コレクションがさらに充実した。

マスコミの取材件数は211件、うち和文媒体209件、外国語媒体2件であった。

原美術館 ARC において株式会社アーテックが当財団より委託され営業している The Museum Shop の年間利用客数は4,701名、対総入館者比は18.3%、カフェ ダールの年間利用客数は8,213名、対総入館者比は32.0%であった。

A. 学芸事項

今期において次の通り展覧会を開催した。

【1】原美術館 ARC

入館者数：25,667人

2021年4月24日－2022年1月10日、2022年3月19日－3月31日(開館日数240日)

(令和2年度入館者数12,017人／2020年4月1日－2020年11月3日(開館日数156日))

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令による臨時休館32日(4月10日－5月15日))

●「虹をかける：原美術館／原六郎コレクション」

会期 第1期(春夏季)：2021年4月24日(土)－9月5日(日)

第2期(秋冬季)：2021年9月11日(土)－2022年1月10日(月・祝)

*古美術展示替え 2021年7月1日、11月4日

開催日数 第1期：121日 第2期：108日 計：229日

入館者数 第1期：12,522人(一日平均103人) 第2期：11,738人(一日平均109人)
計：24,260人(一日平均106人)

原美術館 ARC 初の展覧会として「虹をかける：原美術館／原六郎コレクション」展を第1期(春夏季)と第2期(秋冬季)に分けて開催した。虹は、当館を運営する財団の名称「アルカンシエール(Arc-en Ciel)」の和訳であり、人と人が美術を通じて対等に交流するための架け橋でありたいという財団理念を表し、2021年1月に閉館した原美術館とハラ ミュージアム アークの個性を原美術館 ARC へと繋ぐ表象でもある。また、光が屈折することで複数の色彩が可視化される虹という現象は、視点や角度を変えることによって見えないものが見えてくる、美術のあり方にも通じる。さらに多様性や共存、平和の象徴とされることもある虹をテーマに、本展では、「原美術館コレクション」と「原六郎コレクション」から、性別も国籍も文化も異なるアーティストたちの多様な表現を展覧した。中心となったのは、理事長の原俊夫が2018年に企画した「現代美術に魅せられて」展の出品作品や、コロナ禍により中止

を 余儀なくされた原美術館最後の収蔵品展に展示する予定だった作品群。加えて、奈良美智、宮島達男、森村泰昌など、かつての原美術館常設作品がリニューアルされ、新たに原美術館 ARC の顔として楽しんでいただいた。通り雨の後、東に大きく開けた空にかかる優美な虹と、自らの想像力や情熱をもってアーティストたちがかける創造の虹との両輪で、今後この場所だからこそ可能となる美術館のあり方を模索する展覧会とした。

出品作家

通年：アニッシュ カプーア「虚空」、草間彌生「ミラールーム（かぼちゃ）」、宮島達男「時の連鎖」、森村泰昌「輪舞（双子）」、奈良美智「My Drawing Room」、鈴木康広「日本列島のベンチ」、束芋「真夜中の海」など

第1期（春夏季）現代美術：艾未未、カレル アペル、ヨゼフ アルバース、アルマン、今井俊満、トム ウェッセルマン、アンディ ウォーホル、エロ、大竹伸朗、オノサト トシノブ、河原温、アンゼルム キーフアー、工藤哲巳、クリスト、篠田桃紅、篠原有司男、ジャスパー ジョーンズ、菅井汲、杉本博司、須田悦弘、セザール、タキス、ジャン ティングリー、ジャン デュビュッフェ、ルイズ ニーヴェルスン、ナム ジュン パイク、ジャン フォートリエ、ルチオ フォンタナ、ジャクソン ポロック、ジョナサン ボロフスキー、三木富雄、村上友晴、ロバート メイプルソープ、元永定正、ロバート ラウシェンバーグ、ジム ランビー、李禹煥、ロイ リキテンシュタイン、ジェームス ローゼンクイスト、マーク ロスコ

古美術：狩野探幽「龍虎図」、森徹山「百鶴図屏風」、狩野派「花鳥図屏風」「雲龍図」、円山応挙「淀川兩岸図巻」、ぶりぶり蒔絵徳利堤

第2期（秋冬季）現代美術：荒木経惟、安藤正子、アドリアナ ヴァレジョン、フランチェスカ ウッドマン、内倉ひとみ、トレイシー エミン、加藤泉、加藤美佳、エンリコ カステラーニ、アンゼルム キーフアー、ウィリアム ケントリッジ、坂田栄一郎、佐藤雅晴、佐藤時啓、マリック シディベ、周鉄海、崔在銀、須田悦弘、ジェイソン テラオカ、ミカリーン トーマス、名和晃平、ルイズ ニーヴェルスン、蜷川実花、野口里佳、ヤン ファーブル、クリスチャン ボルトンスキー、ジョナサン ボロフスキー、増田佳江、村上友晴、森村泰昌、やなぎ みわ、柳幸典、米田知子、横尾忠則、ジム ランビー、ピピロッチェ リスト、ジャン=ピエール レイノー

古美術：円山応挙「淀川兩岸図巻」、狩野永徳「虎図」、狩野派「雲龍図」「層嶺瀑布図」「野馬図」

●「雲をつかむ：原美術館／原六郎コレクション」

会期 第1期（春夏季） 2022年3月19日（土）—9月4日（日）

第2期（秋冬季） 2022年9月10日（土）—2023年1月9日（月・祝）

*古美術展示替え（予定） 2022年6月30日、11月

開催日数（予定） 第1期：152日 第2期：105日 計：257日

*2021年度中の開催日数は11日（3月19日—3月31日）

入館者数（3月31日時点の11日間） 1,407人（一日平均128人）

昨年の「虹をかける」に続き、作品制作や鑑賞のあり方の一端を表す言葉を当館の豊かな自

然環境に求め、「雲をつかむ」と題し、「原美術館コレクション」（現代美術）と「原六郎コレクション」（東洋古美術）を春夏季と秋冬季の2期に分けて展観。

「雲をつかむ」という言葉は、「雲をつかむような話」といったように、漠然としてとらえどころのない様や、現実味のないことを意味し、少々ネガティブな印象を与えるが、一般的な意味・解釈から解放すれば、非現実的と思われることにあえて挑戦する姿勢や、混沌とした状況や不透明な事象から、真実らしきものや本質とみなし得るものをとらえようとする意志を表すポジティブな言葉とみなすこともできる。

そのような「雲をつかむ」という言葉をもとに現代美術ギャラリーA、B、Cに展示された作品の多くは、作家が自己や美術や社会の本質をつかもうと独自の理論・手法を編み出して制作した作品や、現実の再現ではなく概念を作品化したもの、具体的な像を結ばない抽象絵画や立体、不可解な光景が連なる多義的な写真作品など。一方、特別展示室・観海庵では、雲を描くことで場面を転換したり時の流れを表したりする日本近世絵画や、仏教絵画における雲の表現をご覧いただいている。また、円山応挙の『淀川兩岸図巻』（下図）を巻き替えながら通年で展示。本図を描くための応挙の淀川体験と意図を下図から読み解く展示とした。

原美術館 ARC の広い空には、西の山の向こうから雲が現れてはかたちを変えながら流れている。雲水を眺めながら作品の意図をつかもうと次から次へと考えを巡らせる展覧会としている。

出品作家

通年：アニッシュ カプーア、草間彌生、宮島達男、森村泰昌、奈良美智、東芋

第1期（春夏季）現代美術：エレナ アルメイダ、井田照一、内倉ひとみ、笹口数、佐藤時啓、杉本博司、須田悦弘、ピエール スーラージュ、エンリコ カステラーニ、辰野登恵子、イサム ノグチ、野村仁、ナム ジュン パイク、藤本由紀夫、マルタ パン、ベルント&ヒラ ベッヒャー、アゴスティーノ ボナルーミ、宮脇愛子、森村泰昌、山口長男、吉田克朗、エドワード ルシェ、ジャン＝ピエール レイノー、エドワード ルシェ、リチャード ロング

古美術：狩野派「蘭亭図」、円山応挙「淀川兩岸図巻」（下図）、ぶりぶり蒔絵徳利堤、波に千鳥蒔絵提重など

第2期（秋冬季）（予定）現代美術：榎倉康二、大野智史、加藤泉、イヴ クライン、白髪一雄、アントニ タピエス、中村一美、鳴海暢平、堀浩哉、ジョナサン ボロフスキー、増田佳江、ジャック モノリー、トレイシー モファット、森浩治、横尾忠則、吉田克朗、李禹煥など

古美術：円山応挙「淀川兩岸図巻」（下図）、「帰去来・放白鵬図」など

【2】新規受贈作品

古美術品 111 点 (原六郎コレクション)

<主要作品画像>

阿弥陀三尊来迎図



法華曼荼羅



七佛曼荼羅



角倉素庵 (1571-1632) 他
「光悦謡本(特製本)」



青磁袴腰香炉



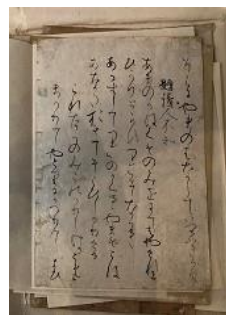
青磁鳥形水指



吉野山蒔絵硯箱



名物歌切十二種



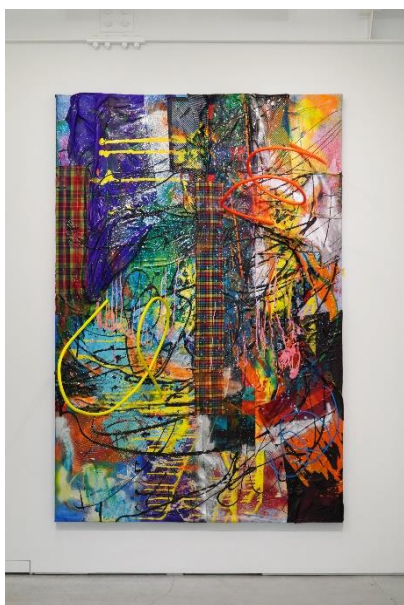
沈周「花卉禽鳥図冊」



【3】新規受託作品



1. 鈴木康広「日本列島のベンチ」 2014/2021 作
ミクストメディア、サイズ可変



2. 鬼頭健吾「big rip」 2021 年作
キャンバスにアクリル絵の具、ガラス、布、金属 H210.5×W140×D52.5cm

B. 普及事項

【1】講演会、教育プログラム等

本年度は下記の通り、3件のイベントを開催した。

1. ARC バスツアーとワークショップ「これなんのかたち？アートにかくれた、いろんなかたちをさがそう」

日時：10月16日（土）8:00～18:00

子供のためのワークショップを企画し、東京から参加する親子のためのバスツアーを実施した。ワークショップでは、デザインされた色とりどりの形あわせのカードと、ヒントの書かれた地図を持って館内をめぐり、屋内外の展示作品の中からカードと同じ形を探すことで、美術館にある作品のいろいろな「かたち」について学んだ。最後にサプライズでソフトクリーム形のカードが登場。隣接する伊香保グリーン牧場でのソフトクリームタイムを楽しんだ。コロナ禍で遠出ができない子供達が自然の中でのおびおび過ごす時間を提供することができた。

助成：一般財団法人 MRA ハウス

企画協力：Polar Inc.

アートディレクション：井上元太

2. メンバーイベント「Art in Town: アーティゾン美術館」

日時：11月13日（土）10:00～／11月25日（木）14:00～ ＊計2回開催

アーティゾン美術館で開催された「ジャム・セッション 石橋財団コレクション×森村泰昌 M 式「海の幸」—森村泰昌 ワタシガタリの神話」展を当館メンバーと訪れるイベント Art in Town を実施した。当日はアーティゾン美術館のレクチャールームにて、本展担当学芸員より展覧会の見どころやアーティゾン美術館、石橋財団コレクションについてのお話を伺った後、自由に展覧会を鑑賞した。

協力：アーティゾン美術館

3. 美術を学ぶ学生のための ARC バスツアー

日時：11月21日（日）8:30～19:00

美術を学ぶ学生を対象にバスツアーを開催、都内の美大4校から参加者が集まった。開架式収蔵庫で当館学芸員が美術館の歴史やコレクションの成り立ち、開催中の展覧会について解説し、その後、常設作家 鈴木康広氏が学生向けの講義を行った。アーティストが自身の作品について語る姿に感化される学生や、学芸員の仕事に興味を示す学生たちの熱意を目の当たりにし、開催の意義を感じる一日となった。

助成：一般財団法人 MRA ハウス

協力：学習院大学、実践女子大学、東京藝術大学、武蔵野美術大学

【2】外部協力

内田洋子

東京都現代美術館 美術資料収蔵委員会委員

青野和子

群馬県文化審議員

群馬県博物館連絡協議会 副会長

アーツ前橋 あり方検討委員

渡辺純子

アジアン・カルチュラル・カウンシル日本財団 評議員（令和4年2月より理事）

坪内雅美

学習院大学 非常勤講師

【3】所蔵作品の貸し出し

- (1) 貸出先:愛知県美術館、東京都現代美術館、朝日新聞社

期間:2020年12月2日-2021年10月31日

理由:両館で巡回開催の「GENKYO 横尾忠則」展への貸し出し出品のため

会期:愛知県美術館 2021年1月15日-4月11日

東京都現代美術館 2021年7月17日-10月17日

作家名:横尾忠則

作品名:『戦後』(磯崎新によるスペシャルフレーム付き)(1985年)

『暗夜光路 眠れない街』(2001年)

『暗夜光路 2001年9月11日』(2001年)

『誰か故郷を想わざる』(2001年)

計4点

- (2) 貸出先:大分県立美術館、朝日新聞社

期間:2021年11月1日-2022年2月4日

理由:上記2館より巡回開催の「GENKYO 横尾忠則」展への貸し出し出品のため

会期:2021年12月4日-2022年1月23日

作家名:横尾忠則

作品名:『戦後』(磯崎新によるスペシャルフレーム付き)(1985年) 計1点

- (3) 貸出先:新潟県立近代美術館、国立国際美術館、東京都現代美術館

期間:2021年2月22日-2022年3月3日

理由:上記3館を巡回する「Viva Video! 久保田成子」展への貸し出し出品のため

会期:新潟県立近代美術館 2021年3月20日-6月6日

国立国際美術館 2021年6月29日-9月23日 *コロナ禍により夜間開館時間短縮

東京都現代美術館 2021年11月13日-2022年2月23日 *同上

作家名:久保田成子

作品名:『デュシャンピアナ:自転車の車輪 1.2.3』(1990年) 計1点

(4) 貸出先:東京都美術館、朝日新聞社

期間:2021年4月2日-10月7日

理由:同館で開催の「発見の道 イサムノグチ」展への貸し出し出品のため

会期:2021年4月24日-8月29日 *コロナ禍により会期変更

作家名:イサム ノグチ

作品名:『レディーミラー』(1983年) 計1点

【4】受託作品の貸し出し

(1) 貸出先:ティンゲリー美術館(スイス・バーゼル)

期間:2020年2月25日-2021年4月19日

理由:ティンゲリー美術館にて開催の泉太郎個展 "ex" 出品のため。

会期:2020年9月2日-11月15日(変更後) コロナ禍により会期の変更および輸送遅延有

作家名:泉太郎

作品名:くすぐられる夢を見た気がする(雲が落ちる)(2017年)

寄託者:鳥越貴樹氏 計1点

【5】学校、団体来館の記録

東京藝術大学(15名)他 24件

〈内訳〉 中学校2件、大学3件、幼稚園その他19件

詳細

群馬県立女子大学(21名) 東京藝術大学(15名) 実践女子大学(7名)

高崎市立塚沢中学校(95名) 桐生大学附属中学校(34名)

認定こども園相愛館(32名)

東京アクセスポイント開架ガイドツアー(19名)

前橋工科大学総合デザイン工学科(45名) 他7件

【6】ポスター・チラシなどの作成配布

		ポスター	チラシ
「虹をかける：原美術館／原六郎コレクション」	第1期	100枚	40,000枚
	第2期	100枚	20,000枚
「雲をつかむ：原美術館／原六郎コレクション」	第1期	100枚	30,000枚

C. 広報

原美術館ARC

取材件数 計211件(和文媒体209件／外国語媒体2件)

〈和文媒体〉209件

令和3年度は、原美術館ARCとしてのリニューアルオープンからはじまった。依然としてコロナ禍であり、大々的なレセプションは中止せざるを得なかったが、オープン前日の4月23日には記者会および内覧会を実施。県内外のプレス14組が参加した。当日は今春より新しく設置した「日本列島のベンチ」の作者でもある作家の鈴木康広氏を交えながら、青野館長と坪内学芸部長によるガイドツアーを行い、「虹をかける」というテーマに込められた、時代や地域、過去と現在そして未来への懸け橋でありたいという館のポリシーを改めて伝える場となった。また、プレスリリースや看板にも使用した「原美術館+ハラ ミュージアム アーク=原美術館ARC」という短いキャッチコピーも効果的であり、原美術館閉館のニュースを払拭するような前向きな記事が多く掲載された。この他、コロナの状況が落ち着いたタイミングを見計らって、11月にはフォルクスワーゲン社のプレス向け試乗会を開催し、主要男性誌数誌の編集長クラスの来館と掲載に繋げることで、都心から車でアクセスする楽しみを伝える試みや、前橋のアートホテル「白井屋ホテル」と連動し、白井屋ホテルの宿泊客が特別に開架式収蔵庫見学のできるプランや、アートに関心の高い団体の受け入れを行うことで、原美術館ARCの周知活動を行った。群馬県主催のオンライン観光商談会へ参加しての大手旅行代理店へのPRや「伊香保温泉テレビマップ」への広告掲載等、観光客誘致のための広報活動も引き続き行っている。館公式のSNSは twitter はフォロワー数124,600人から123,150人と減少した一方、Instagramは27,640人から31,121人へと増加している。

〈外国語媒体〉2件

原美術館とハラ ミュージアム アークの活動を集約することからはじまった令和3年度は、本来であればより積極的に国内外に我々の活動を告知するべき時であったが、前年度に引き続きコロナ感染症の状況は収束せず、展覧会会期後半を過ぎて年末を迎えるころには、過去最悪の感染者数まで増加、まん延防止対策などの規制を受ける中、英文広報の活動も足踏み状態となってしまったことは否めない。事実、展覧会に対する問い合わせはほとんどなく、英語広報の掲載はほぼゼロとなり、海外からの観光客の足も戻ることはなかった。そんな状況ではあったが、英文広報として、国内在住の外国人や海外から閲覧する人々、そして何よりも美術館の記録のために、これまで通り美術館から

発信する情報は常にバイリンガルで作成することを心掛けた。今年に入ってヨーロッパを中心に感染症に対する規制を解除する国が増えてきており、日本も海外からの観光客数制限を緩和する動きをみせ始めている。これから少しずつ戻り始める観光客をどのようにして群馬の原美術館ARCまで誘致するのか。英文広報としては、これまで行ってきた国内外の媒体へのアプローチをはじめ、国内の大使館や宿泊施設にも積極的にコンタクトをとり、原美術館 ARC の活動を告知することに注力したいと考えている。

取材件数 211件(和文媒体 209件／外国語媒体 2件)

■ 展覧会 計 139 件(和文 138 件／外国語 1 件)

1. 虹をかける:原美術館／原六郎コレクション(2021 年 4 月 24 日－2022 年 1 月 10 日)
139 件[和文 138 件／外国語 1 件]

■ 施設紹介、他 計 72 件(和文 71 件／外国語 1 件)

1. 原美術館 ARC 50 件[和文 49 件／外国語 1 件]
2. 原美術館 3 件[和文 3 件]
3. カフェ ダール 1 件[和文 1 件]
4. ザ・ミュージアムショップ 3 件[和文 3 件]
5. ロケ 3 件[和文 3 件]
6. ARC その他 9 件[和文 9 件]
7. その他 3 件[和文 3 件]

〈掲載媒体〉(和文／外国語、順不同)

【新聞】上毛新聞、風っ子(上毛新聞社)、朝日新聞、夕刊マリオン(朝日新聞社)、朝日ぐんま(朝日新聞社)、毎日新聞、読売新聞、タウンぐんま(群馬よみうり)、産経新聞、東京新聞、聖教新聞、新美術新聞

【テレビ・ラジオ】「ニュース Just6」(群馬テレビ)、「ニュース eye8」(群馬テレビ)、「技に迫る」(群馬テレビ)、「ほっとぐんま630」(NHK 前橋放送局)、「開運！なんでも鑑定団」(テレビ東京)、「マイあさだより」(NHK 第一放送)

【美術・デザイン専門誌】美術手帖(美術出版社)、月刊ギャラリー(ギャラリーステーション)、美術の窓(生活の友社)、パレット(プラスリラックス)、ACC Japan 通信(ACC 日本財団)

【一般誌】和楽(小学館)、オズマガジン(スターツ出版)、リンネル(宝島社)、旅の手帖(交通新聞社)、大樹 LIFE(大樹生命)、Discover Japan(Discover Japan)、Casa BRUTUS(マガジンハウス)

【女性誌】フィガロ(CCC メディアハウス)

【男性誌】メンズノンノ(集英社)、Pen(CCC メディアハウス)、GOETHE(幻冬舎)、メンズクラブ(ハースト・デジタル・ジャパン)

【情報誌】月刊 raifu(シンクリード)

【ガイドブック】ふもとりっふ(赤城自然園)、まっふる群馬(昭文社)、まっふるドライブ(昭文社)、ことりっふ伊香保・草津(昭文社)、るるぶ群馬(JTB パブリッシング)、

【ムック・書籍】すごい美術展 2021-2022(ぴあ)、造形のポエティカー 日本美術史を巡る新たな地平ー(青簡舎)

【スマホアプリ】チラシミュージアム(イープラス)、ぴあ(ぴあ)

【ウェブサイト】美術手帖(BTCompany)、Internet Museum(丹青社)、TOKYO ART BEAT(GADAGO)、JDN(JDN)、Walkerplus(KADOKAWA)、art scape(大日本印刷)、art commons(国立新美術館)、Art iT(アートイット)、美術展ナビ(読売新聞)、Tokyo Live&Exhibits(スタジオミーム)、TOKION(TOKION)、OBIKAKE(和光エージェンシー)、アートアジェンダ(FAITH)、FASHIONSAP(レコオーランド)、個展なび(個展なび)、今見られる全国のおすすめ展覧会 100(ケイティコム)、GINZA(マガジンハウス)、Numero TOKYO(扶桑社)、白井屋ホテル(白井屋ホテル)、Art Fair Tokyo(アート東京)、UOMO(集英社)、小山登美夫ギャラリーJ、APAN VIEW(大空出版)、Fashion Press(Fashion Press)、キタコレアート(博報堂ケトル)、旅色プラス(ブランジスタメディア)、NAVITIME Travel(ナビタイムジャパン)、まなびねっとぐんま(群馬生涯学習センター)、goo 地図(NTT レゾナント)、伊香保づくし(伊香保温泉旅館協同組合)、日本旅行(日本旅行)、Dokka!おでかけ探検隊(Dokka エンタープライズ)、BIGLOBE 旅行(ビッグロブ)、JR 東日本 観光スポット・イベント情報(JR 東日本)、JR おでかけネット(JR 西日本)、じゃらんニュース(リクルート)、ぐんラボ(朝日印刷工業)、ぴあポイントサイト(ぴあ)、他

D. Hara Museum Web

www.haramuseum.or.jp

shop.haramuseum.or.jp

blog:www.art-it.asia/u/HaraMuseum

Twitter: @haramuseum

Instagram: @hara_museum

令和3年度の動き

令和2年度の公式ウェブサイトのリニューアル(部分修正)に引き続き、原美術館の閉館に伴い一時的に休止していた、オンラインショップ、メンバーシップページを復活させた。(オンラインショップは10月、メンバーシップページは12月に開設。)いずれもネットショップ作成サービスの「BASE」を利用し、オンライン決済が安全かつスムーズに行えることを第一に、既存のウェブサイトリンクを付けるというシンプルな構造としている。

〈アクセスログ解析(<http://www.haramuseum.or.jp>)〉

・アクセス数

*月平均訪問者数	0.4万件	(昨年度 2.7万件)
*月平均訪問件数	1.8万件	(昨年度 4.4万件)
*月平均閲覧ページ数	1万ページ	(昨年度 12.7万ページ)
*月別最多訪問者数	0.6万件	(2021年4月 虹をかける展)

E. 海外交流

【1】 招聘 なし

【2】 派遣 なし

F. メンバーシップ

【1】 メンバーシップの動き

本年度も、8月28日に予定していたメンバー限定のギャラリーガイドが中止になる等、コロナ禍で教育プログラムやメンバー向けイベントの開催が大きく制限された。そのような中でも、統合後の原美術館ARCもサポートしようと東京在住のメンバーの方が更新してくださる、あるいは群馬県内の方が新規でメンバーになり、リピーターとなってくださる等の心強い動きも見えている。新規入会はほぼ群馬県内の方であることを考えると、継続の東京在住の方、新規の群馬県内の方、どちらにとっても魅力あるプログラムを用意し、アプローチしていく必要があると考えられる。

このほか、これまで郵送のみでおこなっていたメンバーレターを送付を極力メール配信に切り替え、短時間かつローコストでの情報配信を行う、オンラインでの入会・更新手続きを行えるよう、ウェブサイトのメンバーページをリニューアルする等、手続きの合理化も進めている。

会費・会員数推移

令和3年度は、引き続きのコロナ禍および、昨年度にコロナ禍で十分な特典を提供できなかったため、継続者のうち希望する人にはメンバーシップの有効期限を1年間延長したことの影響もあり、ほぼ横ばいの会員数(会費金額は減少)となった。

令和3年度末における会員総数は201名。新規加入17件、継続加入184件。

(単位:円、消費税込)

令和元年度		令和2年度		令和3年度	
会員数	会費金額	会員数	会費金額	会員数	会費金額
262	11,432,640	192	8,159,346	201	5,320,000

【2】 カテゴリー別会員数

フレンズ会員 178 名、個人賛助会員 14 名、法人賛助会員 9 社

II. 庶務事項

A. 役員に関する事項

令和4年3月31日現在

(50音順)

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
評議員	麻生和子	R1.6.19		一般財団法人アジア・カルチュラル・カウンシル日本財団 代表理事
評議員	大林剛郎	H23.11.1		株式会社大林組 代表取締役会長
評議員	徳川義崇	H27.6.25		公益財団法人徳川黎明会 会長
評議員	原直道	H23.11.1		日本土地山林株式会社 代表取締役社長
評議員	丸山剛郎	H27.6.25		大阪大学名誉教授、特定非営利活動法人日本咬合学会 理事長、歯学博士

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
理事長	原俊夫	H23.11.1	常勤	日本土地山林株式会社 取締役会長
常務理事	原洋子	R1.6.19	常勤	株式会社アーテック 取締役
理事	國生肇	H23.6.30		國生肇法律事務所 弁護士
理事	坂本正	H23.6.30		学校法人高輪学園 理事長
理事	佐藤陽一郎	R3.12.14		太陽グラントソントン税理士法人 代表社員 理事長 税理士
理事	安田信	H23.6.30		株式会社安田信事務所 代表取締役社長

(50音順)

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
監事	千葉雄二	H27.6.25		千葉雄二税理士事務所 税理士
監事	野嶋慎一郎	H23.6.30		野嶋慎一郎法律事務所 弁護士

B. 職員に関する事項

令和4年3月31日現在

所 属	主な役職者、部署別人数	担 当 業 務
原美術館ARC	館長 青野和子	美術館統括 主任学芸員 教育プログラム事項 作品管理事項
	学芸部 2名	学芸事項
	管理部 1名	管理業務
理事長室	1名	インターナショナルプログラム事項 メンバーシップ事項
事務局	事務局長 加藤隆一	法人事務
合 計	6名	

(備 考)

1. 上記の他、アルバイトが常勤している。

C. 役員会事項

1. 評議員会

【第1回開催】令和3年6月21日

〔報告事項〕

(1) 令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）事業内容報告の件

〔決議事項〕

(1) 令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）事業内容報告及び計算書類審議の件

(2) 理事6名選任の件

〔結果〕報告事項について議長は事業経過につき、理事長他担当学芸員等に説明を求め、別添資料に基づく詳細な説明がなされた。

1号議案、2号議案について、出席評議員全員一致をもって原案通り承認可決した。

尚、2号議案の被選任者は、それぞれ直ちに承認を承諾した。

【第2回開催】令和3年12月14日（評議員会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

(1) 理事1名選任の件

理事候補者 佐藤陽一郎氏（新任）

〔結果〕令和3年12月7日、代表理事 原俊夫が評議員に対して決議事項を記載した書面を発し、当該決議事項につき、令和3年12月14日に議決権を有する全評議員より書面により同意の意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第194条第1項の規定により当該議案を可決する旨の評議員会の議決があったものとみなされた。

2. 理事会

【第1回開催】令和3年4月1日（理事会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

(1) 貸付債権寄附受入れ承認の件

原俊夫理事長が保有する以下の財産の寄付を当財団の基本財産として受け入れることの承認を求める。

寄附財産の内容：貸付債権 債権金額 3,150,000,000円

債務者 日本土地山林株式会社

利率 年1.0%（市場金利により変動）

最終弁済日 令和33年3月31日

〔結果〕令和3年4月1日、理事 原俊夫が理事及び監事全員に対して決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案につき、令和3年4月1日に理事の全員から書面により同意の意思表示を、また、監事から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、定款第45条に基づき、当該議案を可決する旨の理事会の議決があったものとみなされた。

【第2回開催】令和3年6月4日（理事会の議決があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

- （1）令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）事業報告内容を報告し、計算書類等承認決議の件
- （2）定時評議員会招集決議の件

〔結果〕令和3年5月28日、理事 原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案につき、令和3年6月4日に理事の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の理事会の議決があったものとみなされた。

【第3回開催】令和3年6月21日

〔決議事項〕

- （1）代表理事1名選定の件
- （2）常務理事1名選定の件

〔報告事項〕

職務執行状況報告

〔結果〕1号議案、2号議案については、定款第32条1項の規定により、当財団の代表理事（理事長）1名、常務理事1名を互選により選定する必要がある旨を述べこの選定につき一同に諮ったところ、互選により原俊夫を代表理事として、原洋子を常務理事として選定した。

尚、被選定者は、席上ただちにその就任を承諾した。

報告事項については、理事長から昨年11月より行われていたハラ ミュージアム アーク（原美術館ARC）の改修工事が本年4月に終了したことの報告があった。続いて、常務理事から1月に閉館した原美術館の主要な常設展示作品の原美術館ARCへの移設を行ったこと、及び理事長による古美術の当財団への寄附の受け入れに関して報告があった。

【第4回開催】令和3年12月6日（理事会の議決があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

- （1）評議員会への理事1名選任提案の件

理事1名選任の件を評議員会の議決の目的である事項とし、評議員会の決議の省略により行う事を各評議員に提案する。

理事候補者 佐藤陽一郎氏（新任）

〔結果〕令和3年11月25日、理事長 原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案つき、令和3年12月6日に理事の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

【第5回開催】令和4年2月4日（理事会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

（1）古美術品寄附受け入れ承認の件

原俊夫理事長が所有している別添えの古美術品111点の寄附を当財団の基本財産として受け入れることの承認を求める

〔結果〕令和4年1月28日、理事長 原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案つき、令和4年2月4日に理事の全員から書面により同意の意思表示を、また、監事から文書により異議がない旨の意思表示を得たので、定款45条に基づき、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

【第6回開催】令和4年3月24日

〔決議事項〕

（1）令和4年度（令和4年4月1日より令和5年3月31日）事業計画及び収支算承認の件

〔報告事項〕

（1）令和3年度（令和3年4月1日より令和4年2月28日現在）事業執行状況報告の件

〔結果〕1号議案について、議長は、令和4年度の事業計画及び収支予算について別添資料の通りとしたい旨とその内容を説明し、これを出席者一同に諮ったところ全員一致をもって原案通り可決承認した。

報告事項についても、令和4年2月28日現在の別添資料に基づき、事業の推移と令和4年3月期の収支決算予想について説明し報告した。

D. 関連組織兼任事項

理事長原俊夫が役員を兼任する外部関連団体、役職

令和4年3月31日現在

1. ニューヨーク近代美術館国際評議会 名誉会員
2. ホノルル ミュージアム オブ アート 名誉評議員
3. 公益財団法人徳川黎明会 評議員
4. 公益財団法人大林財団 評議員
5. 学校法人高輪学園 評議員

E. 庶務

1. 令和3年4月1日付、「ハラ ミュージアム アーク」から「原美術館ARC」へ群馬県博物館登録原簿の名称変更登録を行った。
2. 博物館における青少年に対する学習機会の充実に関する基準、望ましい基準
群馬県に対し「青少年を対象にした取り組み等に関する実績報告」を令和3年6月29日に届出した。

Ⅲ. 委託付帯事業

原美術館 ARC において株式会社アーテックが当財団より委託され営業している The Museum Shop 及びカフェ ダールの運営状況は次の通りである。

【1】 物販(The Museum Shop) 年間販売額 1,176 万円(税別)

年間利用客数 4,701 名 対総入館者比 18.3%

カタログ販売数 149 点 ポスター販売数 29 点

主な販売商品

SHOP@CAFE 企画 : 駒形克己(紙の作品)

オリジナルポストカード、オリジナルグッズ、草間彌生グッズ、奈良美智グッズ、森村泰昌 T シャツ、鈴木康広グッズ、内倉ひとみマルチプル、コムデギャルソン香水、LOQI エコバッグ、MiW ハンカチ、SUMIRE ISHIOKA ツイード小物、KISSO アクセサリー、Tail しっぽの傘など、約 1,000 品目。

【2】 飲食(カフェ ダール) 年間販売額 684 万円(税別)

年間利用客数 8,213 名 対総入館者比 32.0%

IV. 寄付金等に関する事項

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：円)

寄付の目的	寄付者	領収金額	備考
1. 経常収益			
寄付金	個人	300,000	4件
	計	300,000	
助成金	ハラ ミュージアム ファンド	3,731,500	アメリカンアート 修復費用
	一般財団法人MR Aハウス	833,574	メンバーシップ イベント バスツアー
	計	4,565,074	
2. 指定正味財産			
受取寄付金	原俊夫	3,150,000,000	貸付債権
受贈美術品	原俊夫	37,215,000	原六郎コレクション 111点
	計	3,187,215,000	
	合計	3,192,080,074	

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。